

平成19年度 第2回「越前市地域公共交通会議」

概 要

日 時：平成20年3月26日(水)14:00～15:30

会 場：越前市市民ホール 2階 第3会議室

出席委員：16名 欠席委員：4名

1. 開 会

2. 会長あいさつ 川上洋司会長

3. 報告事項

(1) 市民バス（のろっさ）運行について

① 越前市市民バス本格運行の利用実績報告 【資料1】

市民バスの利用実績について、平成18年度2月までの利用者人数と平成19年度2月までの利用者人数を比較すると7.5%増加。その要因としては、平成18年度に実験運行を行い、平成19年4月23日から本格運行を開始したこと、また、低床バスの新車導入等が考えられるとの報告があった。

② 公募提案型委託契約について 【資料2】

平成20年度の市民バスの運行事業を委託するにあたり、受託機会の公平性及び透明性を確保した上で、市民バス運行の最もふさわしい委託先を審査し、併せて競争原理に基づく手法として「公募提案型委託契約」方式を実施したことについて報告があった。また、次年度以降に反映させるため、制度の内容について意見を求めた。

(2) 路線バスについて

① 高校生の利用促進 【資料3】

高校生の遠距離バス通学の利便性を図るため、平成19年11月1日から、

福鉄バス池田線及び武生・越前海岸線の運行ルートやダイヤを改善したことについて報告があった。

② 路線バス運行計画の変更について 【資料4】

南越前町河野地区の住民要望により、学生等の帰る時間にあわせ、平成20年4月1日から王子保・河野海岸線の武生新発を18:40→19:20に40分間遅らせ改善を行うことについて報告があった。

(3) 運転免許自主返納支援事業について 【資料5】

平成19年10月1日から平成20年3月26日までの運転免許自主返納支援事業申請者数は24人。平成18年度の1年間における越前市内の運転免許自主返納者数は9人であり、この半年で昨年1年間の2.7倍と、この支援事業の効果が大きく表れている。

(4) JR駅前広場バスシェルター整備について 【資料6】

JR武生駅前広場にあるバスターミナルは、路線バスや市民バス、湯楽里行きバスが結節する公共交通の重要なアクセスポイントである。このバスターミナルのピーク時には、高齢者等の乗客が雨の日には傘をさして立ったまま待っている状態であったが、雨風をよけるバスシェルター及びベンチ、時計を平成19年10月31日に設置し利用者の利便性を高めたと報告があった。

(5) 市都市戦略策定公共交通チームについて 【資料7】

市では、各部局の若手職員11人からなる庁内横断型のチームを編成し、新しい公共交通のあり方について調査研究を行った。その研究結果について、平成19年11月20日に市長に提言を行った。その提言書について報告があった。

4. 協議事項

(1) 福武線利用促進について 【資料8】

福武線利用促進の市民フォーラムや福武線存続の署名活動等の結果について報告があった。また、福武線存続に向けた沿線3市住民の合同会議や越前市内における市民連絡会議の動きについて紹介された。

5. 閉 会

越前市市民バス利用実績報告書

【資料1】

武生エリア年度別利用客数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H17年度	2,956	2,961	2,941	3,193	2,949	3,177	3,821	3,174	3,309	3,376	3,186	3,387	38,430
H18年度	2,864	2,975	3,084	3,149	3,119	3,005	4,159	4,114	3,693	3,537	3,721	4,166	41,586
H19年度	3,785	4,211	4,452	4,524	4,421	4,055	5,613	4,367	4,428	4,380	4,879	0	49,115

今立エリア年度別利用客数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H17年度	2,895	2,946	3,670	3,002	1,997	3,132	3,295	3,904	3,488	3,389	4,322	4,021	40,061
H18年度	2,925	3,244	3,735	2,919	1,416	3,440	3,908	3,345	3,065	3,009	3,185	2,781	36,972
H19年度	2,391	2,831	3,074	2,277	1,091	2,524	2,884	3,073	2,455	2,440	2,819		27,859

年度別利用客数合計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H17年度	5,851	5,907	6,611	6,195	4,946	6,309	7,116	7,078	6,797	6,765	7,508	7,408	78,491
H18年度	5,789	6,219	6,819	6,068	4,535	6,445	8,067	7,459	6,758	6,546	6,906	6,947	78,558
H19年度	6,176	7,042	7,526	6,801	5,512	6,579	8,497	7,440	6,883	6,820	7,698		76,974
利用客増減数 (H19-H18)人	387	823	707	733	977	134	430	△ 19	125	274	792		5,363
利用客増減率 (H19-H18)%	6.7	13.2	10.4	12.1	21.5	2.1	5.3	△ 0.3	1.8	4.2	11.5		

市民バス運行事業 公募提案型委託契約について

1. 市民バス運行事業の公募提案型委託契約の趣旨

平成 20 年度の越前市民バス（のろっさ）の運行事業を委託するにあたり、受託機会の公平性及び透明性を確保した上で、市民バス運行の最もふさわしい委託先を審査し、併せて競争原理に基づく手法として「公募提案型委託契約」方式を実施した。

2. 委託内容

公募提案Aコース 越前市市民バス（武生エリア）8路線

公募提案Bコース 越前市市民バス（今立エリア）3路線

※いずれの運行期間も、平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日まで。

平成 20 年度予算額 49,000 千円

3. 参加者の資格

- ①平成 20 年 4 月 1 日までに、越前市内に本店及び支店、営業所を有する者で、道路運送法第 4 条第 1 項の許可を得られて、一般乗合旅客運送事業を開始できるもの。
- ②また、一般乗合旅客自動車運送事業において、必要とされる運転者講習（路線教習）や管理体制の構築ができるもの。
- ③共同事業者による参加…共同事業者とは、複数の事業者が共同して事業を行う場合で、代表事業者及びその他の事業者からなるものをいい、市と締結する市民バス運行事業委託契約の相手方となり、提案した内容に基づく事業の実施に連帯して責任を負う。

4. 評価項目及び評価方法

5 名の選考委員が 1 月 31 日にヒアリングを行い、その後、提案書に沿って、下記の評価項目①～⑤について採点を行った。評価項目①～⑤の評価点は、各選考委員の与えた点数の平均値で決定。この評価点に運送経費の見積り金額の評価点を加算して、最も点数の高い者と契約する。

評価項目

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| (a) 業務経歴 | ①業務実績（5点） |
| (b) 業務実施体制 | ②業務実施体制（5点） |
| (c) 本業務への提案 | ③安全確保策（10点） |
| | ④利用者利便の確保と利用者拡大策（25点） |
| | ⑤環境保全への取組み（5点） |
| (d) 見積金額（事業予定額を上限額とする）及び積算内訳 | ⑥運送経費の見積り金額（50点） |

合計 100 点

5. 選考結果

公募提案Aコース 福井鉄道株式会社

公募提案Bコース ヤマトタクシー株式会社・武生タクシー株式会社共同企業体

路線バス 高校生の利用促進について

高校生の遠距離バス通学の利便性を図るため、11月1日から、福鉄バス池田線及び武生・越前海岸線の運行ルートやダイヤを改善した。

◇福鉄バス 池田線の改善

- ① 武生東高校・武生高校への通学時間帯での運行
池田発→味真野経由→武生新着の時計回りから、池田発→武生東高校、武生高校経由の反時計回りにルートを変更。
- ② J R 武生駅に到着後、武生工業、武生商業、高専、鯖江高校、丹南高校を巡回。

※稲荷 6:40→武生東高校 7:18→武生高校 7:29→J R 武生駅 7:35→〔高校巡回バス〕武生工業 7:42→武生商業 7:53→高専 7:55→鯖江高校 8:02→丹南高校 8:09

※1月の平均利用者数

高校生 28人、計 28人。

- ③ これにあわせ、池田町の貸切スクールバスを廃止。
- ④ 帰路についても、丹南高校から J R 武生駅までを巡回。
- ⑤ 巡回に要する費用を県が平成 20 年 9 月まで負担。

◇福鉄バス 武生・越前海岸線の改善

- ① 通学時の 2 便体制を 3 便体制へ強化し、高校巡回・直行バスを運行。
越前岬 6:25→武生新 7:33（現行どおり）

<高校巡回バス>

かれい崎 6:30→J R 武生駅 7:45→〔高校巡回バス〕武生工業 7:52→武生商業 8:03→高専 8:05→鯖江高校 8:12→丹南高校 8:19

※平均利用者数

高校生 38人、一般等 2人、計 40人。

<高校直行バス>（増便）

かれい崎 6:40→武生新 7:57→〔高校直行バス〕武生高校 8:00→武生東高校 8:12

※平均利用者数

高校生 46人、一般等 1人、計 47人。

- ② 帰路についても、丹南高校から J R 武生駅までを巡回。
- ③ 巡回に要する費用を県が平成 20 年 9 月まで負担。

池田町、越前町からのバス通学利便向上内容（福井鉄道バス 池田線、武生・越前海岸線）

各高校付近には
 1便 7:45~8:10頃到着予定
 2便 7:55~8:20頃到着予定



●丹南高

〈池田町における改善内容〉11月から実施予定

- ① 武生東、武生高校への通学時間帯での運行
 - ・ 池田 6:40 発 味真野経由 福鉄武生新駅着を武生東、武生高校経由に変更
- ② J R武生駅に到着後、武生工業、武生商業、高専、鯖江、丹南高校を巡回
- ③ 下校時には、丹南高校からJ R武生駅まで各高校を巡回

福井高専 ●鯖江高

●武生商業高

武生東高

直行バス

●武生高

福鉄武生新駅

J R武生駅

●武生工業高

夕方の改善ルート

朝の改善ルート

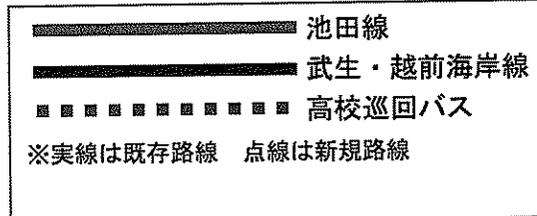
池田線

●池田町

県道管生武生線

〈越前町における改善内容〉11月から実施予定

- ① 通学時の2便体制を3便体制へ強化し、高校巡回・直行バスを運行
 - ・ 越前岬 6:25 発 福鉄武生新駅着（現行どおり）
 - ・ かれい崎 6:30 発 J R武生駅着（到着後、武生工業、武生商業、高専、鯖江、丹南高校を巡回）
 - ・ かれい崎 6:40 発（増便）
福鉄武生新駅到着後、武生・武生東高校へ直行
- ② 下校時には、丹南高校からJ R武生駅まで各高校を巡回



越前岬

武生・越前海岸線

織田地区

越前地区

R305

越前町
かれい崎

宮崎地区

R365

3-1

路線バス運行計画の変更について

◇福鉄バス 王子保・河野海岸線の改善

- ① 南越前町河野地区の住民要望により、学生等の帰る時間にあわせ、武生新発を18:40→19:20に40分間遅らせる。

※武生新発 19:20→JR王子保駅前 19:38 経由→糠長島着 20:07

- ② JRのダイヤ改正にあわせ、JR王子保駅との接続に余裕を持たせるため、糠長島発の全ての便をそれぞれ2分間早める。

※いずれも、4月1日付で変更。

運転免許自主返納支援事業について

◆平成20年3月26日末現在の運転免許自主返納支援事業申請者数

平成19年10月	7人	(年齢の内訳)		(有効期限の内訳)	
11月	4人	60歳代	1人	1年間を保障	12人
12月	4人	70歳代	11人	有効期限の残年数1～2年	8人
平成20年1月	5人	80歳代	12人	〃	2～3年 3人
2月	2人			〃	3～4年 1人
3月	2人			〃	4～5年 0人
合計					24人

◇市内の運転免許自主返納者数

平成18年度	1年間	9人
平成19年	1月～8月30日	13人
平成19年	10月～3月10日	27人

◇高齢者の交通事故の状況

平成18年	1月～12月	高齢者第1当事者数	66件
平成19年	1月～12月	高齢者第1当事者数	69件

平成18年	10月～平成19年2月	高齢者第1当事者数	25件
平成19年	10月～平成20年2月	高齢者第1当事者数	31件

◇市内65歳以上の高齢者人口	平成18年4月1日現在	19,004人(外国人44人含む)
	平成19年4月1日現在	19,445人(外国人48人含む)

J R 武生駅前広場バスシェルター整備について

1. 事業の概要

J R 武生駅前広場、バスシェルター及びベンチ、時計の設置

平成 19 年度予算 2,391,900 円

(ノーマイカー交通促進支援事業県補助金 1/2 1,195 千円)

2. 事業の成果

J R 武生駅前広場にあるバスターミナルは、路線バスや市民バス、湯楽里行きバスが結節する公共交通の重要なアクセスポイントである。

このバスターミナルのピーク時には、高齢者等の乗客が雨の日には傘をさして立っただけの状態であったが、雨風をよけるバスシェルター及びベンチ、時計を平成 19 年 10 月 31 日に設置し利用者の利便性を高めた。



越 前 市

—これからの公共交通のあり方—

政策提言

平成19年11月20日

越前市都市戦略策定公共交通チーム

担当部長	企画部理事	友兼 和昭
担当課長	企画部政策推進課課長	河瀬 信宏
チーム員	防災安全課	小池 幸弘
	市民課	野澤 雅人
	保険年金課	大森由紀子
	長寿福祉課	白崎 加奈
	社会福祉課	福田利士行
	観光振興課	齊藤 裕里
	農林整備課	谷崎 義隆
	都市整備課	山崎 幸子
	地域づくり課	高木 恵未
	会計課	吉田 ユカ
	教育総務課	武藤加代子

1 チームに与えられた課題

越前市における定住化の促進に資するため、これからの公共交通のあり方について調査研究し、公共交通体系に係る政策を提案する。

2 これからの公共交通のあり方について

行政の積極的支援

〔公共交通は行政サービス〕

移動制約者への支援策 → 将来のまちづくりを考えた公共交通施策
道路整備費予算 → 公共交通関係費予算

〔市民・企業・学校との協働〕

企業(学校)との協働による通勤(通学)への利用促進 参考 p.8 データ1
商業、観光との連携による利用促進

クルマ優先社会の見直し

〔自動車と公共交通の程よい関係〕

徒歩、自転車、公共交通、自動車等の複数の交通手段を状況に応じて選択できる社会づくり

イメージ刷新

〔見た目・快適さも大事〕

明るくきれいなイメージ
乗ってみたいくなるデザイン
移動体空間としての楽しさ、居心地のよさが感じられる

〔公共交通のよさをアピール〕

安全面 …… 交通事故の減少に貢献
環境面 …… CO2削減など環境によいまちづくりに貢献 参考 p.8 データ2
健康面 …… 歩く距離が増えることにより運動不足解消
経済面 …… マイカー利用と比較すると想像以上に経済的 参考 p.8 データ3.4

〔公共交通を身近なものに〕

子供のころから公共交通機関に触れる環境づくり
市民への PR

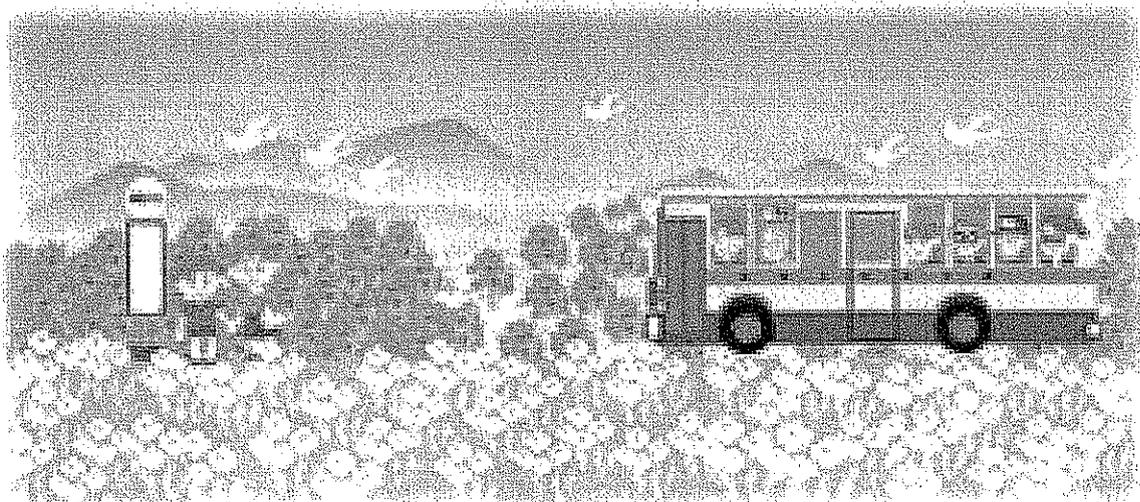
3 具体的な施策

具体的な施策 カテゴリー別

〔1. 利用しやすい公共交通・ソフト〕	
(1) 通学しやすい公共交通へ	<ul style="list-style-type: none"> ・武生高校、武生東高校方面への通学専用ルート（朝）の新設【平成19年11月から改善】
(2) 通勤しやすい公共交通へ	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤（通学）の時間帯の増便（15分位の間隔） ・午後7時以降は残業便として、小人数のバスを割り増し料金で設定 ・通勤時間帯には車内でニュースを放送 ・通勤に公共交通（自転車徒歩を含む）を推進している企業を環境優良企業として認定
(3) 利用しやすい料金体系へ （特に郊外部が高い）	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生通学定期の購入者への公的補助（財源は定期購入者増による補助金減少分相当） ・ポイント制で乗った回数に応じて料金割引 ・値下げの断行（自動車の維持費を含めると公共交通は確かに安い、日々のガソリン代だけで比べると自動車よりコスト高）
(4) その他 （定時性・時刻表がわからない・料金がわからない）	<ul style="list-style-type: none"> ・「帰りに乗り遅れても安心サービス」最終便に間に合わなかった定期所持者に対して割引タクシーチケットを配布 ・携帯から時刻表が検索できるシステム開発 ・公共交通問い合わせ窓口の設置（個人向けに最適な方法を回答） ・行事には、必ず公共交通のアクセス方法を記載。行事などにあわせたルート時間設定⇔行事の主催者は、公共交通機関の利用を考慮し、開催場所・時間等を調整する。
〔2. 利用しやすい公共交通・ハード〕	
(1) 新型車両導入	【平成19年9月に低床市民バス導入】
(2) パーク&ライド、サイクル&ライド	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停の近くに無料駐車場を設置 ・バス停近くの公共施設の駐車場・駐輪場の無料開放や、バス停近くの企業や医療機関の駐輪場（駐車場）開放の協力を要請
(3) 屋根・ベンチのあるバス停留所	<ul style="list-style-type: none"> ・雨、風をしのげる停留所整備 ・バス停を目立たせる統一性のあるデザイン ・バス停やベンチを町内で整備した場合の補助制度創設

	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの中に貸し傘設置 ・メモリアルベンチの設置（県産材を使用したベンチで、メッセージプレートなどを付けられる。県の補助(半額)がある)【平成19年10月にJR武生駅前と武生新のバス停留所にベンチを追加設置】
〔3. 市民・企業・学校との協働〕	
(1) 学校との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、親同士の口コミでバス・電車の利便性をアピール ・入学式に各地域と学校間の公共交通の案内
(2) 企業との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・「バス通勤の日」の取組み
(3) 市民からの乗る運動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の利便性を体感させるため、無料もしくは割引の日を設定する ・子ども会などに団体割引 ・土日は一日フリー乗車券の発行
(4) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「公共交通を利用する日」を設定し、全市的にノーマイカー、ウォーキングを実施。(市民バスはこの日無料) ・商店街と協働し、公共交通で来られた方に対して特典を設定 ・駐車場料金サービスと同程度のサービス設定(回数券以外の人にも楽しみをつける) ・バス乗車中の付加価値設定 (バスの中に図書館の本の返却箱設置。商店街の宣伝、宅配注文箱の設置など) ・市役所やJR駅の待合室などにバスのルートの地図と現在バスの走っている場所を知らせる電光掲示板の設置(公共交通を利用していける場所の宣伝、協賛店などは地図に掲載)
〔4. 道路空間の再配分・コンパクトなまち〕	
(1) 公共交通を優遇	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の融雪
(2) 自転車で移動しやすい	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生自転車通学のスペース確保
(3) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の再配置(公共交通のアクセスを考えた公共施設の配置)
〔5. 公共交通のイメージ刷新・アピール〕	
(1) きれいな車両	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停を含めた統一カラーとしてアピール 【平成19年9月に低床市民バス導入】
(2) よさをアピール	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通を利用すると社会に貢献したと実感できるような雰囲気づくり

	<ul style="list-style-type: none"> ・バスのチケット、停留所等を「環境に良いことをしてくれてありがとう」というイメージのデザインに変更 ・公共交通利用の啓発ポスターの作成【この政策提言にて原案作成・・・P7 啓発ポスター(案)】
(3) 市民へのPR	<ul style="list-style-type: none"> ・広報で継続的に公共交通利用の良さをアピール ・「公共交通を応援します」のマークをつくり協賛店や協賛企業を募集（広告料） ⇒協賛者には、環境やまちづくりに貢献しているという名誉。 ⇒ルート地図に掲載してお店や企業を宣伝。
(4) 身近なものに	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の団体活動（スポ少・子ども会等）へのバス利用補助 ・体験乗車の枠の拡大（子どもだけでなく） ・公共交通を使った遠足の実施【丹南広域公共交通機関活性化協議会にて毎年実施。本年は、10月30日大虫小学校、11月1日神山小学校にて実施】 ・モビリティ・マネジメント（MM）の推進（経済、環境、健康面等からアピール資料を作成し配布し意識改革を促す） ・バスの中で「ご意見はがき」を配布。利用者の声による改善点を市民に報告。採用者にバスチケット進呈
(5) 観光との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・休日に使用していない市民バス車両を、市内観光バスに利用【現在、観光振興課にて検討中】



● 直ぐにできること

安全面のアピール・・・高齢者に対する免許自主返納推進のための取組み

－平成19年10月1日施行－

- ・返納者に運免許有効期限までの市民バス無料乗車券を交付（1年未満は1年間の無料乗車券を交付）

市民へのPR・・・転入者への時刻表配布

－平成19年7月から実施－

- ・市民課窓口にて転入者に対し、市民バス「のろっさ」時刻表を配布

公共交通利用の啓発ポスターの作成

今回の政策提言にて原案作成・・・P7 啓発ポスター（案）

通学への利用促進・・・高校に対する公共交通利用の呼びかけ

・・・公共交通機関の運行回数、時間の充実、料金の引き下げ

参考 p.8 データ5

－平成19年11月1日から実施－

- ・福鉄路線バス「池田線」の運行を改善。
 - ①武生東・武生高校の通学時間にあわせ、時刻及び運行方向を変更。
 - ②武生駅に到着後、武生工業、武生商業、鯖江高校、高専、丹南高校を循環。
 - ③帰路についても、丹南高校から武生駅までを巡回。

● 検討すべきこと

通勤への利用促進・・・企業（高校）との連携による公共交通の通勤（通学）利用促進

－事例－ 通勤手当ての見直し(名古屋市役所)

- ・自転車や徒歩に対する通勤手当てを増額
- ・自動車通勤に対する通勤手当てを減額

【結果】2000年に比べ、2003年には自転車通勤者が約50%増えた一方、マイカー通勤者は約25%減少

クルマ優先社会の見直し

・・・パーク&ライド、サイクル&ライド等の整備

ー平成19年10月1日施行ー

JR遠距離利用駐車場を34台分JR武生駅東に整備

・・・自転車利用促進のための屋根付き駐輪場整備

観光との連携・・・市民バスの運休日にバスを有効利用する

現在、観光振興課にて検討中

身近なものに・・・小・中学校での公共交通教育

よさをアピール・・・安全面、環境面、健康面、経済面から資料を作成し自発的に公共交通利用にシフトするように誘導

● じっくり考えること

予算の確保・・・道路整備費用と公共交通関係費用とを総合的に考えた予算配分の検討

クルマ優先社会の見直し

・・・車道から歩道、自転車道へ道路空間の再配分参考 p.27~29

ー事例ー 自転車走行区間の確保(前橋市、宇都宮市)

公共交通優先・・・一般車両より公共交通を優遇する

ー事例ー バス専用道路(富山市、北九州市)

4 啓発ポスター(案)

視覚的に、公共交通利用促進を訴えるものとして、啓発ポスターを作成し、街に掲示する。
「コンセプト」

公共交通利用すると…地球にやさしい、みんなにやさしい

- ① 環境「ECO」によい CO2削減
- ② 地球温暖化対策
- ③ 健康的「メタボリック対策」
- ④ 快適なまちづくり

そのためには、「市民の意識が必要」→「あなたの意識が街を変える」

別添啓発ポスター(案)

福武線利用促進について

◇福武線利用促進・市民フォーラム

日 時	平成19年11月28日(水)	午後7時～8時30分
参加者	350人	
主 催	越前市、越前市地域公共交通会議	
内 容	福武線の現状報告	<福井鉄道関係者>
	事例発表	<えちぜん鉄道関係者>
	パネルディスカッション「テーマ：みんなで守ろう福武線」	
	コーディネーター	川上洋司福井大学大学院教授
	パネラー	福武線利用者等

◇「残そう福武線！！電車は地域の財産だ」市民フォーラム

日 時	平成20年2月25日(月)	午後7時～8時30分
参加者	300人	
主 催	越前市区長会連合会、越前市自治振興会連絡協議会、連合福井南越地域協議会、丹南市民自治研究センター	
内 容	講演「公共交通としての福武線と地域づくり」 NPO法人 ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)	

◇福武線署名活動

越前市区長会連合会が全17地区で取り組んできた福武線存続のための署名を3月14日、越前市長と越前市議会議長に提出。

なお、この時点の署名数は、約49,544人。

◇福武線存続に向けた沿線住民の合同会議(仮称)開催

日 時	3月8日・18日 鯖江市役所	
出席者	福井市自治会連合会 越前市区長会連合会 鯖江市区長会連合会	
協議結果	沿線3市の住民などが結束して、福武線の存続のために「乗る運動」などによる利用促進運動を推進するため、沿線3市合同の組織を立ち上げた。	

◇越前市・福武線利用促進・市民会議(仮称)

2月25日及び3月24日に、越前市区長会連合会、越前市自治振興会連絡協議会、連合福井南越地域協議会、越前市老人クラブ連合会等が集まり、今後の利用促進に向けた取り組みを協議。

事業の運営と行政の支援

